

めいじょうこうえん

名城公園遺跡(本発掘調査B)

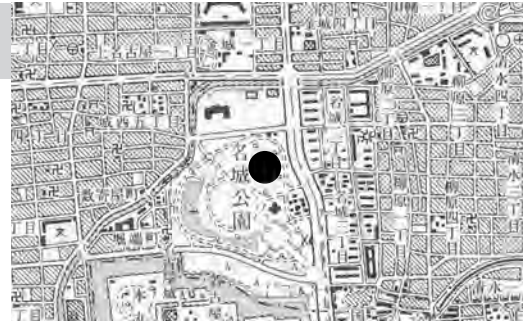
所在地 名古屋市区名城1丁目
(北緯35度11分24秒 東経136度54分09秒)

調査理由 愛知県新体育館整備・運営等事業

調査期間 令和4年4月～6月

調査面積 27,000㎡

担当者 鈴木正貴・永井邦仁・早野浩二・鈴木恵介・
木村有作・石黒立人・宮腰健司



調査地点(1/2.5万「名古屋北部」)

調査の経過 調査は、愛知県スポーツ局による愛知県新体育館整備・運営等事業に伴う事前調査として、愛知県民文化局から委託を受けて行った。当該遺跡では令和3年度(令和4年1月～3月)にも発掘調査を行っており、引き続き令和4年4月～6月に令和4年度の発掘調査を行った。両年度の発掘調査総面積は27,000㎡である。

調査区は表土掘削の進行状況に合わせて設定され、令和4年度の調査区(22A～C区)は主に発掘調査対象地の北東部に相当する。しかし、前年度に着手した調査区(21Aa～Cb区)の一部は年度内に表土掘削が完了しなかったため、年度を越えて発掘調査を継続した。

立地と環境 遺跡は特別史跡名古屋城の北側に位置し、名古屋城本丸などの所在する台地から約10m下った沖積低地にあり、標高は4.5～5.5mである。江戸時代には、名古屋城北堀に隣接する「御蓮池」とその北側に尾張徳川家の庭園である下御深井御庭が広がっていた。これらの土地は明治22(1889)年からは陸軍の練兵場となっていた。

調査の概要 遺跡の中央には南東から北西方向に抜ける旧河道が確認された。旧河道の形状は概ね古墳時代の状況であり、最大幅は約45mの谷地形となっている。その埋土は粗粒砂～円礫を主体としており、出土する須恵器の年代から奈良時代初頭までに河川堆積によって埋没したと考えられる。そして旧河道左岸(西側)には自然堤防とみられる微高地があり、ここを中心に古墳時代後期を中心とする集落が展開する。これに対して右岸(東側)では当該期の竪穴建物や掘立柱建物は少ないものの大型のものが所在し、左岸とは異なる土地利用状況がうかがえる。(永井邦仁)

21Aa・21Ca区 北東方向に傾斜する自然堤防状微高地の縁辺に相当する旧河道左岸の北部において、古墳時代前期後半、古墳時代後期、飛鳥・奈良時代、中世以降の各時期の遺構を検出した。

古墳時代前期後半の遺構として、平行する2条以上の溝00654SD・00688SD、00697SDを検出した。00688SDにおいてはS字甕、高杯を主体とする土器群、編物錘と思われる長細い自然石約15点の集積も確認された。

古墳時代後期の遺構として、竪穴建物、土坑等がある。竪穴建物は炭化材、炭化物層の広がりが見られるものの、掘方を明確に検出することは困難であった。炭化材が比較的良好に遺存する02135SIでは、炭化材に混じって須恵器有蓋高杯が伏せられた状態で出土した。竪穴建物の竈と思われる遺構として、焼土と炭化物に混じって須恵器杯が3個体逆位で重ねられた01513SX、須恵器蓋が石製支脚に被せられていた01250SL、竈内に台付甕が残されていた(02160SIに伴う)02149SL等がある。土坑00693SKからは、須恵器蓋杯・高杯・甕・鉢・筒形器台、土師器宇田型甕等が良好な状態で出土した。炭化物が互層状に堆積する浅い掘鉢状の落ち込み0095SXからは、須恵器鉢、土師器台付甕、砥石等が出土した。

- 飛鳥・奈良時代
- その他、まとまった遺物が出土した落ち込み状の遺構01519SX等の遺構がある。
- 飛鳥・奈良時代の遺構としては、竪穴建物、掘立柱建物等がある。竪穴建物は床面付近とその下位の掘方が検出された。01540SIは一辺約6mで、支柱穴が2棟分確認されること、竪穴建物の平面形がやや不整形であることから、別の1棟が重複していた可能性が高い。北辺に敷設された竈には、支脚を抜き取ったと思われる小穴に甕の口縁部から体部上半が伏せられた状態で残されていた。掘方からは須恵器有台杯が出土した。小型の竪穴建物01545SIは長軸約4.0m、短軸約3.5mで、東辺に竈を敷設する。竈側の床面一帯には炭化物層と灰層の薄層が互層状に累積した状態で検出され、その上面からは円面硯が出土した。
- 竪穴建物と掘立柱建物等から構成される集落の廃絶後には、自然堤防状微高地の西縁に沿って、ほぼ平行する2条の溝00150SD、00151SDが掘削される。また微高地上には平行する小溝群が掘削される。確実に遺構に伴う遺物がほとんどなく、詳細な時期は不明であるが、遺構の先後関係、埋土からは中世以前と推定される。(早野浩二)
- 21Ba区
- 微高地の南半部は、北部から連続する古墳時代の集落域となっている。集落の建物は大半が竪穴建物で、その平面規模は一辺約4mが大半であるが、一部に一辺約6m以上のものがみられる(01216SI・02199SIなど)。特に02199SIでは屋根材または壁材の一部と考えられる炭化材が広範囲で確認されており、焼失建物と位置づけられる。出土遺物は7世紀代の須恵器が多数ある。02199SIは旧河道(00035NR)左岸にきわめて接近しているが、00035NR左岸においてもラミナ状堆積の中から7世紀代の須恵器が多量に出土しており、河川を間近にした集落景観が想像される。また00035NRの堆積中には、須恵器を含む長径約3m規模の貝層01495SMがある。古墳時代集落の下層には、弥生時代後期初頭の竪穴建物02223SIがあり、建物規模は一辺約6mの隅丸方形である。
- 下御深井御庭
- 21Ba区では、最上位面において江戸時代の溝や池状遺構が検出され、尾張藩の下御深井御庭の一部と考えられる。特に、調査区最南端部で江戸時代後期の瓦や陶器類の出土が集中し、庭園内施設である松山御茶屋付近の可能性が高い。また陶器類に伴って匣鉢や棚板などの窯道具も多く出土しているが、絵図等によれば当該地点から東方には御深井焼の



第1面調査時の遺跡全景(北から)

窯場があったと推定され、それに関連する遺物と位置づけられる。(永井邦仁)

2 1 B b 区 21Bb区西側には旧河道00035NRがあり、遺構が検出された範囲はこの00035NRの右岸にあたる。21Bb区東端部には古墳時代前期より前に形成された微高地が存在し、当初はこの微高地を回り込むように南から北へ00035NRが流れ、古墳時代前期以降に00035NR右岸側の堆積が進んだとみられる。この過程で陸地化した部分には、主に古墳時代後期～古代初め頃の遺構が検出された。また、微高地南端付近に遺物集積00967SUが存在する。

古墳時代後期 00785SD(22Bb区：00757・00758SD、22A区：01160SD・01156SD)は同一の溝であり、微高地と旧河道の間を流れる。溝の長さは名城公園遺跡の中でも最長で(約180m)、21Bb区南東隅から00035NRに沿う形で北上し、22A区、22B区を通り遺跡の北側に抜ける。これと一部並行する溝が21Bb区に端を発する00929SD(22A区：01648SD・01155SD)であり、22A区では等間隔を保って北上する。

00958SD(22A区：01652SD)は21Bb区の微高地から北東方向に流れる溝である。北の22A区に入り、01648SD(22Bb区：00929SD)や竪穴建物01600SIとの重複地点から西の状況は不明である。これらの遺構との切り合い関係から、00958SDは他よりも古く位置付けられ、他の溝と向きが異なることから遺構の用途が異なる可能性がある。

竪穴建物00790SIは長軸(南北)6.3m、短軸(東西、残存長)4.6mを測る。北壁中央東寄りにカマドを1基配置する。西側は旧河道の溢水か自然流路によって削られて遺構の残存状態が不良で、床面がはっきりとしない。

古墳時代前期 00967SUは古墳時代前期の遺物集積である。22Bb区東側に位置する名古屋市調査区付近から連続する。名古屋市による調査でも同様の遺物集積が確認されている。遺物の分布範囲は東西方向に長く拡がり、微高地や旧河道の方向と一致するが遺物の集積状況は流されてはおらず、遺物集積の北側の微高地上から廃棄されたと考えられている。このことから微高地上には何らかの遺構が存在したと推定されるが、主として練兵場時代より後の攪乱によって遺構が検出されない状況であった。(鈴木恵介)

2 2 A 区 旧河道右岸の北部に相当する22A区では、古墳時代の大型竪穴建物2棟(01600SI・



第2～3面調査時の遺跡全景(南から)

01601SI) が検出されている。いずれも平面規模が一辺約7mの正方形であり遺跡内で最大規模となっている。01601SIでは4基の柱穴および北壁中央に竈の遺構が確認されている。また01601SIの北西側には、2間×2間規模の総柱の掘立柱建物01630SBが1棟単独で所在しており、建物方位が共通するので建物群を構成していると考えられる。一方、北東側には若干方位の異なる掘立柱建物01190SBがあり、その柱穴には木製礎板のあったことが確認されている。なお、遺構の重複関係では01600SIから01601SIへ変遷しているが、その南方の22B区にある00790SIとともに旧河道左岸の密集する建物群からは孤立した存在となっている点は、集落構造を理解するうえで興味深い。

2 2 C 区 22A区からさらに北東側の22C区では00035SNに先行する旧河道(01157NR)が確認された。当該河道は00035NRの東側で南から北へ向かって蛇行する右岸の形状となっており、22C区内では弥生時代末期～古墳時代初頭の土器が多量に出土している。出土状況からは旧河道の東側微高地に当該期の集落が存在したことが推測される。(永井邦仁)



00693SK出土状況



01540SIの竈



江戸時代の窯道具類の出土状況



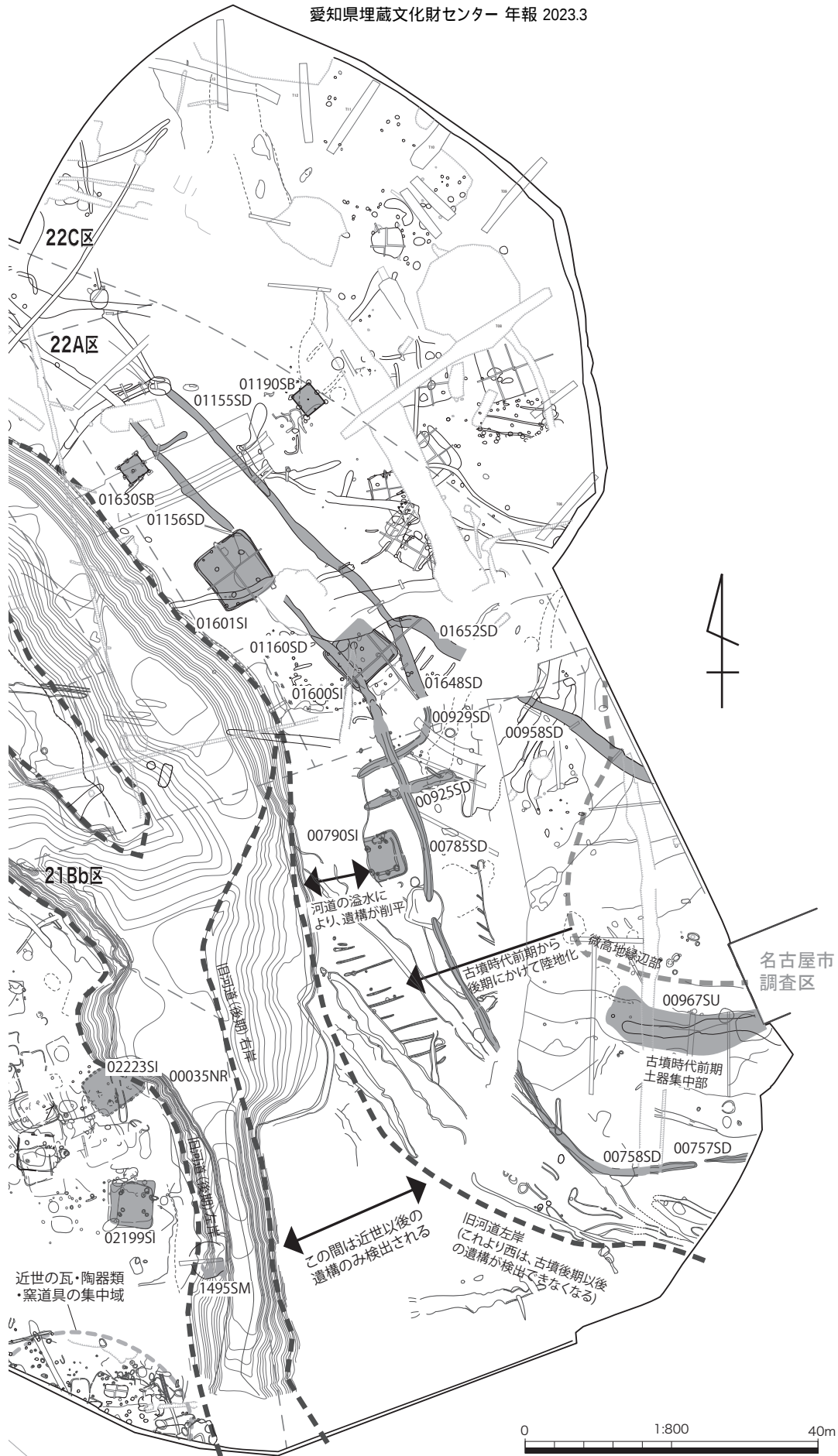
00958SD



00967SU出土状況



第2～4面遺構全体図(西半部)



第2～4面遺構全体図(東半部)